

しずおか福祉

〒425-8611 静岡県焼津市本中根549番1 TEL.054-623-7000 FAX.054-623-7453 http://www.suw.ac.jp

インタビュー

大学生活をふくらませる 大切な一歩

答える人 〇ノ町康夫
(社会福祉学部長)
聞く人 〇ノ町知弘
(福祉心理一年)
写 真 河合賢介
(福祉情報一年)

学生時代はチャレンジするチャンス

竹田 まず、学部長の理想とする学生像について教えてください。

〇ノ町 うーん、答えにくい質問ですね(笑)。自分の可能性を追求する学生かな。各人、それぞれに能力はありますが、その能力をフルに出せる人は意外と少ない。妥協してしまふ人が多い。学生時代はチャレンジするための大きなチャンスでもある。社会に出るとなかなか難しいけれども、今ならできるはずですよ。

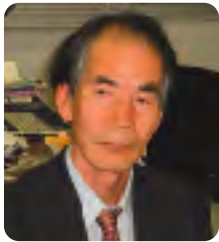
竹田 それが理想とは分かっても頑張りすぎて無理をしてしまう学生もいます。そんな学生にアドバイスはありますか。

〇ノ町 もちろん、結果として体を悪くしては意味がありません。自分の限界や自分のできることについて見極めることも大学生活では要求されます。私自身を振り返っても、力を百パーセント発揮したつもりでも、実際は山あり谷ありでした。それだけに、今こそ全力でぶつかって欲しいとも思います。

心の支援は心理学の手法が有効

竹田 社会福祉の原点は人間が人間らしく生きることを保障することにあると思います。ご専門の心理学との接点についてお考えを聞かせて下さい。

〇ノ町 どんな人間にも一定の制約があり、あるときは身体的な制約であったり、精



〇ノ町康夫 学部長

要求されます。私自身を振り返っても、力を百パーセント発揮したつもりでも、実際は山あり谷ありでした。それだけに、今こそ全力でぶつかって欲しいとも思います。



竹田知弘

アルバイトをバランスよく消化したいと思っておりますが、簡単ではありません。〇ノ町先生は学生時代に、どのようにバランス

学業とサークル活動のバランスが大切

竹田 日頃、勉学とボランティアサークル、アルバイトをバランスよく消化したいと思っておりますが、簡単ではありません。〇ノ町先生は学生時代に、どのようにバランスを取られたのですか。

〇ノ町 どこに重点を置くかについては、個人差があります。その活動によつて、何が得られるかがポイントでしょう。私の場合は、感動を得られるものを重点的にしてきました。しかし、勉学、サークル活動などの中で、何よりも学業を大切にしたい。その上で他の分野も大切にしたい。というの、大学というところは、学業だけではなく良い人間関係を作っていくための格好の練習の場です。その意味でサークルや友だち作りを大切にしたい。一方、ボランティア活動には、相手への理解が欠かせま

せんからね。人間関係をうまく形成していくには心理学の視点も必要です。学業と無関係ではありません。

竹田 実はぼく自身もボランティア活動を通じて新しい友人と知り合うことができました。活動が人間関係の向上にも結びつくんだと実感しました。

〇ノ町 学園祭でもそうですね。教職員と学生とが融合して活動するという面が見られました。気持ちを一つにして何かをするという点では、学生の皆さんも大変エネルギーがあると感じました。そして気持ちの優しい人が多い。その一方で、大学生としての学業、勉強への取り組みについては、ちよつと残念な気がしています。たとえば、図書館を利用する人が少ないですね。腰を落着けてもつと勉強をして欲しい。大学の勉強は高校とか中学とちがつて、授業中に話を聞いただけでは理解できない、奥の深いものです。だからもう一歩、自分から踏み込んで自分の知識にしなければいけない。授業中に質問できるだけの知識を身につけて欲しい。

バランス感覚を忘れず今を大切に

時間はたえず過ぎていきます。何かを成し遂げるためには、今の時間を大切にして、今やることは今おこなう必要があります。あとまわしにすると何も実現しないことになりかねません。どれほど長い道でも、まずは、半歩踏み出さないとけない。その勇気があれば歩き続けることができます。よく言いますが、「思い立ったが吉日」ということですね。いずれにしても、無理をせず、まずは学業を優先させ、友人関係を築き、そして余裕があれば他の分野にも挑戦して欲しい。自分にふさわしいバランスを考えたいと思います。



第二回静福祭が行われました！

十一月十四日(日)、美しい秋晴れのもとに第一回静福祭が開催されました。当日は、「人にやさしく。地域・福祉・出会い」というテーマにふさわしく、幅広い年代の方が大勢お越しくださいました。

野外ステージや教室などでの展示や体験コーナー、中庭での模擬店など、どこも盛況で、来客も学生も各々に笑いあり、なごみありの様々な出会いがあったように見受けられました。

そうした静福祭の様子を、本学学生有志が写真撮影を含め取材してくれました。その報告を是非ご覧下さい。

一、野外ステージの熱い舞台

十時少し前に司会担当の勝俣彰斗君(福祉心理一年)と望月翼君(福祉心理一年)に



心温まる加藤あすみさんの演奏

より軽妙なトークが始まり、今村了太実行委員長(ビジネス情報二年)の開会宣言で第一回静福祭がスタートしました。さて、充

は：最初はおなじみの曲 chuo chuo rain に合わせた「ダンシングガール」によるダンスでした。「そろって

いて筋がいい」との感想が聞かれま

した。続いて「コメディージャグラー」による大



さあ、いよいよヒロシの登場…

「ジェリービーンズ」(セリとマチャ)によるライブはバラードが主流で、女子中学生は「すごい」、男子高校生は「一緒に口ずさんでいた」、六十代のご夫婦は「歌はよく分からないけど綺麗なリズムで良かった」などの感想を寄せてくださいました。

いよいよ静福祭の目玉の一つ、お笑いライブの登場です。「さくらんぼ」「飛石連休」「ヒロシ」の方々が出演されました。会場にはギッシリと人が集まりました。他展示会場や模擬店が急に寂しくなったほどで、大いに盛り上がりました。感想も「テレビで見たことがあ

るネタだ」などの辛口のコメントもあるものの、「やっぱりテレビとは違う!」「グッジョブ!」などの喝采の嵐でした。じゃんけんゲームの勝利者である十六才の少年はサイン色紙を手にして「嬉しい!大切に飾ります」と語っていました。最後のインタビュでは、「明るいキャンパスで綺麗な感じ」「小さな感じではほのぼのできて良い」などの本学の印象とともに「お勉強、頑張ってください!」とお言葉も：ありがとうございました!

後半に入り、SPOによるライブや本学学生によるライブが披露された後、若者には負けれないと教職員で結成された「教職員スペシャル」のライブ、二回目の大道芸、野球部のダンスなど、午後のひとつも次々と演目が続きま

した。徐々に日が傾き寒くなっていく中での熱い演奏やダンスを観客も楽しんでいました。中でも特筆すべきは榛原中学校一年加藤あすみさんの演奏でした(写真)。

あすみさんは平成九年に交通事故による心肺停止から脳低温療法によって蘇生しましたが、運動機能全般に大きな後遺症が残りました。しかし、リハビリを目的に始めたピアノのレッスンを

実を結び、「二十四時間テレビ」にピアノチャレンジャーとして出演するまでに回復しました。本学のステージでも、森山直太郎の「さくら」などの曲目を一生懸命に演奏披露してくださいました。

そして、今村実行委員長の「今日、味わったイイ気持ち、明日誰かに伝えてください。優しさの連鎖をつくっていきましょう!」という閉会の言葉で静福祭の幕が下りました。(以上、渡辺・梶木)

二、展示会場での触れ合い

当地ならではの試飲コーナーでは、インスタラクターの丁寧な説明を伺いながら水の硬度の違いによるお茶を味わうことができ、貴重な体験ができました。海洋深層水やタラソテラピーの展示とともに、来場者の興味深い姿が印象的でした。

女性で賑わうバザー会場から出てきた制服姿の女子高校生(二年)は、「楽しいです。志望校なので見学をかねて来ました。」と話してくれました。再来年、彼女も一緒に大学祭に参加しているといいですね。

介護実習室には子どもから大人まで幅広い年齢層の方々が訪れ、日頃の成果をみせようと熱心に取り組む学生の説明に耳を傾け、真剣に介護体験に取り組まれていました。

大勢の子供たちが昔の遊びやおもちゃ作りを楽しむ「みんなの遊び場」で、介護関連の仕事に従事するという男性にお話を伺いました。「介護実習室を見学できるというので来ました。ここでは学生さんが優しく接してくれるので、うちの子も楽しく遊んでいます。」ご年配の女性もお手玉やあやとりを楽しまれ、こういう機会がたくさんあるといいのに、とおっしゃっていました。レクリエーションの授業の一環として行われた「おもちゃ図書館」も「天空の城ラピュタ」を上映した「シネマフオーラム」も、参加した子どもたちの目が輝いていました。

「東海地震支援プログラム研究会」の展示は身近な問題として来場者の関心を集めていました。地震対策を見直そうと思う、という女性の感想が心に残りました。

投句箱の置かれた俳句の部屋には中庭を向いて机が並んでいました。一人



う〜ん、地震対策、見直さなくては…

が去るとまた一人訪れて机に向かいます。後日、投句箱の俳句の人気投票が行われました。その上位三句。

・せつなさを消えることない冬の夜
 杉浦多佳子（福祉心理一年）

・枯葉舞う空の青さを惜しみけり
 幸田友里香（福祉心理一年）

・秋めいた澄んだ空見て二度寝かな
 武井 千晶（福祉心理一年）
 主催者も来場者もなごやかな出会いを楽しみ展示会場でした。

（以上、関・太田・幸田）

三. 売れ行き好調の模擬店

学生による模擬店は「パスタ屋」、「ケーキ屋」、「駄菓子屋」などの八店、企業等外部からの出店は四店ありました。「ハニカミカレー」などの模擬店は教室の展示に比べると賑やかな雰囲気でした。売り上げも好調で、来客に感想を聞いてみると「おいしい」とのコメント、評判もよかったです。

十一時頃には「ミスタードーナツ」や「授産施設」のクッキー売り場に行列ができ、十二時頃には中部自動車学校の「フライドポテト」にも行列がみられました。

人気商品は「たこ焼き」、手軽で食べやすい「焼きとり」、子どもとお年寄りに人気の駄菓子屋の「ゴム鉄砲」、意外にも男性にも人気があった「クッキー・チーズケーキ」などでした。

親子連れが多く、父親の姿も多くみられました。女性には美容関係の販売がありましたが、男性にはあまり楽しめる出店がなかったのではないかと



なかなか本格的です!パスタ屋「クリエンテ・ペルファボーレ」

う気がしました。

バザー会場で来場者に本学の感想を伺いました。「福祉の学校だけあって親しみやすく、暖かい感じがする（五十代男性、掛川市）」、「はじめて来たけれど静かでいい（七十代女性、沼津市）」など、快く応えてくださいました。

一方、出店学生からは、どの模擬店でも「売れ行きが良かった!早かった!」という声があがっていました。模擬店担当の秋津美奈実行委員（介護福祉二年）は「模擬店数が少なくて苦労したが、昨年より良いのが出来たと思う」と語っていました。

まだ学生数が少ないので掛け持ちで参加する人が多く大変でしたが、協力的に進めることができ、また色々な人との交流もあり、良い学園祭であった

と思います。

（以上、杉浦、太田、山元）

第二回静福祭は平成十七年十一月十三日（日）の予定です。現在、実行委員長の大坪早由里（福祉情報一年）を中心に、準備にとりかかっております。第一回の反省を踏まえ、よりよいものをめざしています。

是非、第二回静福祭もご期待ください。

ご来校をお待ちしております。

取材協力（順不同）

福祉心理一年 増田奏美・斉藤陽子・富田有紀子・北村飛鳥（以上、写真サークル「PCTJUN」）・渡辺真実・山元彩津美・幸田友理香・杉浦多佳子
 福祉情報一年 太田孝二郎
 介護福祉二年 関洋子

静岡県私立短期大学体育大会優勝!



平成16年度第11回静岡県私立短期大学体育大会 [10月17日（日）、11月23日（火）開催]において、本学学生が大健闘をたてました。バドミントン・ダブルスの部では優勝、準優勝、第3位のすべての賞を、シングルの部とドッジボールでは準優勝を、バレーボールでは第4位の好成績をそれぞれ納めました。

始動した地域交流センター 拓かれた大学のシンボルめざして

平田 厚

(地域交流センター長)

「地域福祉の時代」を迎えた今日、本学への地域貢献の期待は大変大きなものがあります。本学の教育理念に基づき、身近な地域社会における具体的な福祉ニーズを、地域に密着した全学生・教職員のさまざまな活動を通じて、市民の生活の豊かさの創造にむけた取り組みを展開できるように「地域交流センター」を開設しました。学生に対しては地域を見る目、福祉を見る目を実践活動を通じて養うことができるとともに支援し、また、本学への各方面からのさまざまな要請に対しては、福祉の専門知識と技術によって、その機能が十分に発揮できるよう努めます。

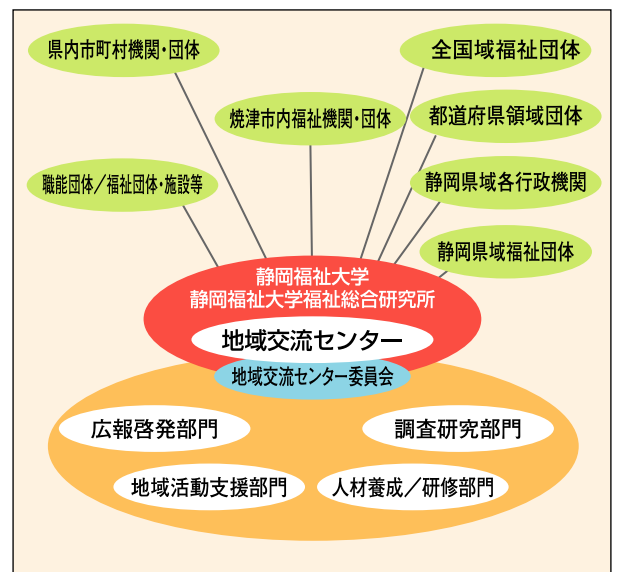
地域交流事業の推進にあたっては、県内外の福祉関係機関・団体をはじめ、職能団体、福祉施設等とネットワークを構

築し、地域社会と大学の共生をめざした取り組みにより、成果をあげる必要があります。「地域交流センター」の機能として主に四つをあげることができます。まず、ホームページや掲示板、パンフレットなどを媒体とした「広報啓発部門」、二つ目に、「あそびの日キャンペーン事業」として大きな反響があった「わんぱくあそびフェスティバル」をはじめ、自主的あるいは要請による地域活動、ボランティアサークル活動などの「地域活動支援」です。三つ目は、住民福祉講座や自治会の自主研修の受け入れなど、「人材養成・研修部門」、そして四つ目は、学生の意識調査や、学生活動プログラム開発などの「調査研究部門」です。

過去三年間における学生の地域参加活動の実績をみると、平成十四年度は延べ二百四十九名でした。平成十五年度には、前年度比二・二倍の五百八十二名に増えていきます。すでに今年度は千名以上が地域参加を試みています(十二月現在)。これは前年度全体の一・六倍となります。また、今年度の活動実績を項目ごとに分析してみますと男女別では、女子学生が六六・六パーセント、男子学生が三三・三パーセントの割合です。領域別では、「地域」が四十件と圧倒的に多く、「施設」が一件、「個人」についてはまだ実践していません。福祉系の大学として今後、予想される支援としては、「個別支援」が考えられます。次に、活動分野別では、「地域」が二十二件、「障害児者」は十一件、「児童」七件、「高齢者」二件となっています。一方、「地域交流センター」の日常業務における相談状況では、学生対応の相談件数が四百二十三件、地域社会対応の相談件数は八十四件となっています。

今後、「拓かれた大学」をめざすために、

市民や他大学の学生がセンターに気軽に立ち寄り利用できるなど、地域社会全体をコーディネートする役割が求められます。キャンパスを地域全体として、さらには、地域密着型の教育に取り組む教育機関、「地域と共生する静岡福祉大学」をめざして「地域交流センター」の機能を充実強化してまいります。



焼津の一大イベント“焼津みなとマラソン大会”には40名が支援活動 (H16.4.11)



近隣自治会保健委員自主研修会は2年継続の開催 (H16.7.14/11.10)



今年は焼津健康まつりにも参加しました (H16.10.2)



焼津ふれあい広場では子どもたちにも人気の遊びのコーナー (H16.10.17)



日韓社会福祉セミナーを静岡県社会福祉士会と共催で本学で開催 (H16.11.13)



学内で藤枝翼ライオンズクラブ定例研修会 (H16.11.26)

卒業にあたって

私のボランティア入門

片岡 孝治

(介護福祉二年)

私は、高校卒業後、ウナギの養殖・加工場に就職しました。勤務し八年経過した頃より、人と接する仕事をしたいという思いが湧き、あるドキュメンタリー番組がきっかけとなり、介護の仕事に興味を持ちました。

介護福祉学科の二期生として入学した四月当初は、二十七歳の自分が十代の若者の中で学生生活を過ごしていくことに正直不安でした。授業が進み、ボランティア活動に参加していくうちに、年齢を超えた仲間たちと友情が生まれ、自分の不安は払拭されていきました。

私は、「やいづおもちゃ図書館」の活動支援に参加しています。おもちゃ図書館とは、障害をもつ子供たちにたくさんのおもちゃを用意して、気に入ったおもちゃで遊んでもらいます。おもちゃを通して、障害のある子供もいない子供も、兄弟・家族・ボランティアと楽しく遊ぶことでコミュニケーションを深め、地域の中で豊かに育って欲しいという目的をもって活動しています。以前は障害をもった方に対して、「こわい」「かわいそう」というイメージを持っていました。しかし、障害を持った多くの子供たちやその家族と接していくうちに、それぞれが明るく、それぞれに個性がある普通の子供であり、自分と何ら変わらない一人の人間だとわかりました。

二年間の学生生活では、多くの人に出

会えたことにより、偏見や先入観をもたず、素直な気持ちで人と接することの大切さを学びました。卒業後は、介護老人福祉施設に介護職員として勤務します。

ボランティア活動を通して経験したこと・学校で学んだ知識・技術を活用し、常に努力を惜しまずに自分を磨き、施設利用者から信頼される介護福祉士になりたいと思います。



福祉の短大で自分に挑戦

望月 明葉

(介護福祉二年)

私の学生時代は「自分への挑戦」の連続でした。私が福祉の道を選んだのは、知的障害を持つ友人と成長してきたなかで、社会の数多くのバリアに接し、障害を持つ方々の生活を支援する専門職に就きたいと思ったからです。

二年間の学校生活では専門的な介護の勉強や福祉施設実習をはじめ、ボランティア活動、バドミントンサークル、クラス委員、学祭委員、海外福祉実習、家庭料理検定等の資格取得など、いろいろな体験をしてきました。私は短大という新しい環境のなかで、いつも「自分自身の可能性を試してみたい」と思っています。

また、相手の事をさりげなく思いやる

友人や厳しい中にも優しさあふれる先生方に出会えたことも心の支えとなりました。いろいろな人の優しさに接する度に、「やっぱり、福祉の大学だな」と感じました。

ボランティア活動では障害者や高齢者の方に豊かな余暇生活を送っていただく勉強をしたいという思いから、ミニデイスーツに何回も参加しました。高齢者の方々の笑顔が会場に溢れ、「私のレクリエーションで、こんなにも喜んでいただけるんだ」と嬉しくなりました。

この経験は身体障害者施設での実習にも生かすことが出来ました。場面に合わせていろいろなレクリエーションを展開できることで、初対面のご利用者とも、すぐに打ち解けるきっかけづくりができました。

また、短大の授業では介護概論や形態別介護技術、医学一般などを通じて専門的な知識・技術を身につけると共に、常に相手の気持ちを尊重しながら接していく利用者主体の福祉のあり方について学びました。

卒業後、私は念願の障害者施設に就職します。これからは、障害者の方々の個性を生かし、できる限り能力を引き出すことで、

社会参加の手助けができる介護福祉士を目指したいと思います。



新潟中越地震の義援金募りに

新潟中越地震が起きた十月二十二日は、介護福祉学科二年生の第四段階実習の直前でした。

実習中に、被災地の生々しい状況の報道が伝わり、実習施設で生活されている方々の中には、涙を流される方もおりました。

学生たちも、被害に驚き、即座に『収集・募金部会』を組織しました。中心となったのは、本学の大学祭でバザーの責任者を務めた吉田恵美子（介護二年）や、ボランティアサークルの飯塚法子（介護一年）たちでした。

彼女たちは、「施設の方々被災者の人々の姿が重なって、何かなくては」、「東海地震が騒がれる中、私たちが何かやらねば」、という気持で、がんばりました。その結果、学生対象の募金活動や大学祭の各コーナーでの募金、バザーの売上金等を含め、二十九万二千八百五十四円を集めることができました。この義援金は、平成十六年十一月二十二日静岡新聞社焼津支局を通じ新潟県に届けられました。

協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

(文責 前川)

喫煙マナーを守りましたよ！

キャンペーン実施中

小泉 和也

(介護福祉二年、静岡福祉大学学友会代議委員会委員長)

最近では、職場禁煙を実施する施設や企業も見られます。そろそろ就職活動を始める学生は、禁煙を採用の条件とする企業が増えていることも知っておく必要があります。企業によっては禁煙が就職に有利ということもあります。そこで、本学では喫煙マナーの向上をめざしてキャンペーンを実施していくことになりました。

タバコは健康に

大きな影響を及ぼす

「百害あって、一利なし」と言われます。タバコは本人だけでなく周囲の人達の健康を害することがあります。



タバコの中に含まれているニコチンや一酸化炭素などの有害物質は、さまざまな疾患を招く原因ともなります。たとえば、タバコを吸うことで引き起こされる頭痛、嘔吐、めまいにとどまらず、喫煙は知覚障害や不整脈の原因ともなるのです。慢性的に吸い続けた場合には、振戦（注：手が震える症状）、不眠、血管収縮、けいれんなどの症状や、中には呼吸筋麻痺で呼吸停止になり命を落とすケースさえあります。

さらに、日本人の死亡原因の第一位である「悪性腫瘍（がん）」のうち、肺がんに罹る確率が長期間にわたる喫煙によって非常に高くなることが分かっています。喫煙の影響は喫煙者本人にとどまりません。受動喫煙（副流煙と呼ばれる他人のタバコの煙を無意識に吸ってしまうこと）は、喫煙者以上に刺激が強く、また発癌物質などの有害成分の含有量も高くなると言われています。タバコを吸う時は周囲の人達への影響を考えて欲しいと思います。

意識調査にみる

喫煙マナーの大切さ

日本たばこ産業の調べによると、今年の六月時点で成人のタバコを吸う人の割合は二九・四％（男性四六・九％、

女性一三・二％）と九年連続で減少傾向にあります。本学で十月の下旬から十一月の下旬にかけて、学生を対象とした意識調査を行ったところ、学生のタバコを吸う人の割合は一五・九％でした。

禁煙者に喫煙についてどう思うかと質問したところ、喫煙所外で吸っている人を目にする、廊下に臭いにおいが流れてくる、所定の喫煙所で吸って欲しいなど、喫煙者のマナーを問う意見が目立ちました。喫煙者のマナー向上については、全面禁煙、携帯灰皿の使用、吸い殻拾い、喫煙所外で吸っている学生への注意、啓発ポスターを作るなどの意見が寄せられました。なお、意識調査アンケートにご協力してくださった皆さんに誌上を借りて感謝申し上げます。

マナー向上をめざして

真剣に考えていきたい

今回の調査で集まった意見をもとに、本学の学友会代議委員会では話があった結果、①喫煙マナーの悪い学生に注意を呼びかける、②啓発ポスター等の掲示物を作成する、③吸い殻拾いなどを行うこととなりました。すべての学生の協力をお願いしたいと思います。なお、校内を全面禁煙とすべきという意見もありましたが、まずは喫煙者のマナーを良くする、喫煙ルールを決めるといったことから取り組みたいという

結論に落ち着きました。また全面禁煙の実施については引き続き、検討していくことになりました。すべての学生が快適な学生生活を過ごせるように、皆さんと共に考えていきたいと思っております。

禁煙のメリット・デメリットを考えよう

森 孝 宏

(学生部長・医師)

健康増進法施行を契機に官公庁や病院、施設、学校などの公共の場所や飲食店などで全面禁煙が広がっています。

メリットは、代金削減、口臭改善、医療保健福祉分野での就職に圧倒的に有利、自分の健康維持、奇形児や精神発達遅滞児出産リスク軽減、受動喫煙による幼児の気管支炎、肺炎、気管支喘息予防、同居者の発癌予防、環境に配慮し、周囲への思いやりを表明できるなどが考えられます。デメリットは、かつこつけられない、コミュニケーションの不得手さがごまかせない、ニコチン離脱症状に苦しむなどでしょうか？吸っているとかっこ悪いと思うけど！

編集後記

学報『しずおか福祉』第二号をお届けします。今号は、本学の学生たちが書いた記事を中心に編集しました。若い生き生きとした言葉が、とても新鮮です。なによりも、勢いがあります。若い人たちの息吹と躍動を、学報に、学校に、もっともっと反映させていきたいと思っています。本号の編集に携わった教員は、以下の通りです。太田晴康、加藤あけみ、榊木てる子、岡澤裕子、田嶋裕美、前川有希子、小田部雄次。